

久留米大学を受診した患者さんへ

「生殖補助医療後妊娠における臍帯および胎盤異常に関する疫学的研究」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成 28 年 9 月から平成 30 年 3 月 31 日まで
- 2) 受診科：産科
- 3) 対象疾患名：妊娠女性
- 4) 使用する情報：妊娠分娩に関する周産期登録

あなたの情報を医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みにになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大学産婦人科学講座
 研究代表者：教授 堀 大蔵
 研究分担者：准教授 吉里 俊幸
 助教 黒川 裕介
 助教 上妻 友隆
 下村 卓也（聖マリア病院産婦人科）
 蔵本 昭孝（熊本市市民病院産婦人科）
 川上 浩介（小倉医療センター産婦人科）
 蓮尾 泰之（九州医療センター産婦人科）

2) 研究の意義と目的：

近年不妊治療後の妊娠が増加傾向にあります。不妊治療、特に生殖補助医療後妊娠（体外受精など）は、胎盤付着部異常または臍帯付着部異常を伴う報告がされております。胎盤付着部異常は分娩時に大出血を伴う危険性があり、臍帯付着部異常は胎児発育不全、分娩時の出血など、より慎重な妊娠分娩管理を必要とし、周産期予後に影響を及ぼす可能性が考えられます。

そのため 2013 年から 2015 年に久留米大学病院産科病棟で出産した女性のデータを用いて、生殖補助医療後妊娠と胎盤付着部異常、臍帯付着部異常との関連を探り、周産期予後にどのように影響したかを調べます。

3) 研究の方法：

日本産婦人科学会周産期登録データベースを基に生殖補助医療後妊娠群と非生殖補助医療後妊娠（自然妊娠、排卵誘発後妊娠）の2群に分け、胎盤付着部異常の有無、臍帯付着部異常の有無および周産期予後との関連を調査します。

4) 研究期間：平成28年9月倫理委員会承認後～平成30年3月31日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：

日本産婦人科学会周産期登録データベースは、日本全国での登録施設が総合周産期母子医療センターなど約350施設におよび、調査項目は妊娠分娩に関連した内容であることから、周産期のデータを得るのに一番信頼度の高いことが考えられるためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

妊婦氏名、病院のID、住所、電話番号等の個人情報は消去されるようにプログラムして回収しております。

7) 研究成果の発表の方法：

得られた情報は論文によって公表する予定です。

8) 利益相反：特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しない。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

（代表者氏名）黒川裕介（所属：産婦人科、職名：助教）

（住所）久留米市旭町67番地 産婦人科学講座

（TEL）0942-31-7573（FAX）